２０１９年度事業計画案

＜２０１９年４月１日～２０２０年３月３１日＞

２０１９年３月９日

JAPAN POWERLIFTING ASSOCIATION

公益社団法人　日本パワーリフティング協会

決意と方針

公益社団法人日本パワーリフティング協会（ＪＰＡ）は、平成２８年度、平成２９年度において、ＪＰＡの存立に関わる組織運営上の重大な問題が発生したために、平成３０年度において良識ある会員の熱意により、組織の刷新が実現し、新しいＪＰＡが誕生しました。

今回、新たに任命された役員によるＪＰＡ新体制は、改めて公益法人であることを強く認識した上で、定款及び規程類無視、不適切な会計処理という違法な行為を二度と起こさないことを決意して、お互いに力を合わせながら組織の立て直しを図り、定款、規程類の順守というコンプライアンスを重視するとともに、今まで以上にガバナンスを徹底し、新役員一丸となって健全な組織運営と透明性の高い適切な会計処理の実現に向けて尽力しなければなりません。

そのために、これからは「対立と排除」ではなく、「理解と協力」を重視して参ります。

新生ＪＰＡは、上記のことを念頭において新年度の運営方針に反映させ、事業計画を真摯に進めて参る所存です。

正会員、賛助会員の皆様をはじめ、選手や審判の方々のご理解と、厳しくも温かいご支援及びご協力をお願い致します。

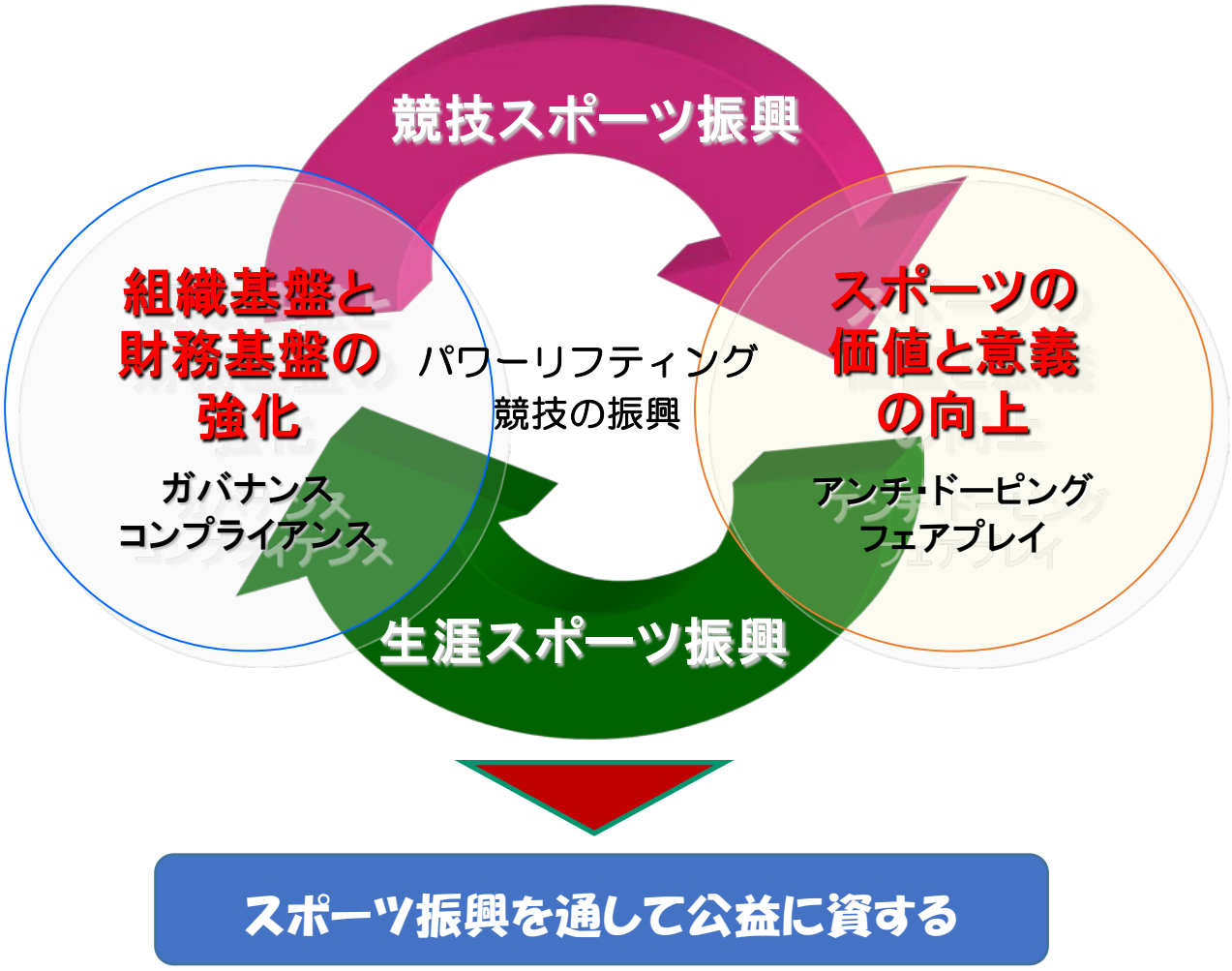
２０１９年３月９日

公益社団法人　日本パワーリフティング協会

会長　佐々木健治

2019年度事業運営方針

■『公益社団法人』として、業務の質の向上と効率化を図るために新システムを導入し、会計処理を含めて透明性のある健全な組織運営を行い、加盟組織、各ブロック及び地方協会との連携強化と活性化を図る。
■国際的に世界で活躍できる『国際振興』、選手が安心して競技に臨める『競技スポーツ振興』と少子・高齢化社会に対応した『生涯スポーツ振興』を軸とし、健常者と障がい者が共に競うパワーリフティング競技の醍醐味を訴求しつつ、パワーリフティング競技の普及発展と健康増進により、社会に貢献する。
■スポーツの価値や意義及びフェアプレイを否定するドーピング問題の発生を繰り返さないという決意の下に、再発防止に向けてドーピング根絶に向けた『アンチ・ドーピング』の徹底推進を図る。
■組織基盤の強化として『ガバナンスの確立・強化』を図るとともに、『コンプライアンス』に基づく組織運営を推進する。



2019年度事業計画

Ⅰ　競技の普及、振興に関する事業

１　全国的競技会の開催事業【技術委員会、組織委員会】

１．１　全国的競技会の主催

●全国的競技会（フルギア競技、ノーギア競技）を全国各地で継続的に主催することにより、競技力の向上を図り、国際的に活躍する競技者の育成に資するとともに、開催地の地方協会と連携を深めながら、競技の普及、振興の促進を図る。

◆実施内容：

（１）フルギア競技

全日本男子パワーリフティング選手権大会（以下「全日本男子パワー大会」）、全日本女子パワーリフティング選手権大会（以下「全日本女子パワー大会」）、全日本ベンチプレス選手権大会（以下「全日本ベンチ大会」）等

（２）ノーギア競技

ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会（以下「クラシックパワー大会」）、ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会（以下「クラシックベンチ大会」）　※クラシックパワー大会をスポーツ振興助成事業として申請中

●２０２０年度までは開催地輪番制による全国規模競技会の開催地選考作業を進める。２０２１年度からは基本的に東京都、大阪府、愛知県、兵庫県、岡山県、神奈川県、長野県、高知県、沖縄県の９カ所が担当することが理事会承認されたので、その範囲内で調整作業を行う。

●主管する地方協会に対して、全日本大会開催マニュアルに基づく適切な大会運営に関する指導や支援を行い、標準化と競技会としての質の向上を図る。

１．２　層別、カテゴリー別全国的競技会の実施

●青少年、中高年等を対象とする生涯スポーツとして高校、大学、社会人等の大会を主催又は後援することで広範な競技層の普及、拡大を図る。

◆実施内容：全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会、全日本マスターズパワーリフティング選手権大会､全日本高等学校パワーリフティング選手権大会、全日本学生パワーリフティング選手権大会、全日本実業団パワーリフティング選手権大会等を主管する地方協会や団体への支援を行う。

１．３　日本スポーツマスターズ２０１９岐阜大会の協賛事業への参画

●生涯スポーツ振興の取り組み事業の一つとして、マスターズ層の総合的競技大会である日本スポーツマスターズに参画を通じて、パワーリフティング競技人口の拡充を図り、国体正式種目採択に向けた基礎作りを進める。

◆実施内容：今年度、ジャパンクラシックマスターズパワーリフティング選手権大会を主管する岐阜県パワーリフティング協会への支援を行う。又、その後、開催が予定されている２０２０年度の愛知県協会に対する支援を行う。

１．４　国体公開競技実施に向けた支援

●平成２７年度のわかやま国体より初開催した公開競技は、２０１９年度の開催地となる茨城県協会及び関東ブロックとの連携を図り、大会運営に関する各種支援を行う。

●２０２０年度以降、鹿児島県、三重県、栃木県、佐賀県、滋賀県で開催される公開競技の成功に向け、開催地の自治体や実行委員会との連携を進めながら、開催県協会を支援する。尚、今後の公開競技開催地は次の通り。

又、平成３０年度の福井国体から、参加人数の増員見直しを行って開催している。

【２０１９年】茨城県つくば市、【２０２０年】鹿児島県沖永良部、
【２０２１年】三重県朝日町、【２０２２年】栃木県、【２０２３年】佐賀県、
【２０２４年】滋賀県

◆実施内容：公開競技の選考方法の見直しを行い、競技内容の充実化と選考方法の周知徹底を図り、必要に応じて、公開競技参加に向けた地方予選会、ブロック選考会の実施に関する支援を行う。

１．５　健常者と障がい者の交流大会の開催

●ノーギア競技会を障がい者が参加できる競技会として位置づけ、障がい者の出場機会を増やすとともに健常者と障がい者の交流を図り、競技普及、競技力向上及び選手育成を推進する。

◆実施内容：障がい者の参加しやすい環境づくりを進めるために、開催要項に障がい者向けの必要事項を追加記載し、全国的競技会のクラシックパワー大会、クラシックベンチ大会を主管する地方協会との連携と支援を行う。審判員に障がい者のための審判方法を指導する。

※上記の各実施内容に係る競技会のスケジュール等は別紙－1 参照

２　国際的競技会等への選手、役員の派遣事業【事務局、国際委員会、国際招致委員会】

２．１　国際的競技会や国際会議への参加

●世界パワーリフティング連盟（ＩＰＦ）が主催する世界パワーリフティング選手権大会等、アジアパワーリフティング連盟（ＡＰＦ）が主催するアジアパワーリフティング選手権大会等、この他、アジア連盟とオセアニア連盟が合同で開催する競技会等の海外の競技会への選手、審判員及び役員の派遣を通じて、選手の競技力向上、国際審判員資格取得の促進、審判技術の向上を図る。

◆実施内容：ＩＰＦ、ＡＰＦ主催の大会に、積極的にＪＰＡ役員、国際審判員を派遣し、大会運営に協力する。

●ＩＰＦやＡＰＦの国際会議に積極的に参加することにより、スポーツを通じた国際交流の推進を図るとともに、参加国の役員との交流により情報交換を行って様々な情報入手に努める。

２．２　国際的競技会の実施

●２０１９年世界ベンチプレス選手権大会の５月開催に向けて、実行委員会を開催し十分な準備をする。

●平成３０年度において、新たに国際招致委員会設置されたことに伴い、２０２０年アジアクラシックパワーリフティング選手権大会の日本開催に向けて、国際委員会、開催地の協会及び関係行政機関との連携・協力を図りながら組織的活動を推進する。

◆実施内容：アジア協会ＥＣメンバーとの連絡網を作り、連絡をリアルタイムにできるようにした。

２．３　国際大会開催要項等に関する日本語翻訳業務とこれに関連する業務の迅速化

●国際委員会の委員が交代したことに伴い、改めて翻訳担当委員やサポーターの確保を図り、ＩＰＦ及びＡＰＦからの英語版開催要項等の諸情報を入手次第、即時に日本語翻訳にとりかかり、関係者への迅速な案内とホームページ掲載を徹底する。

◆実施内容：翻訳サポーターの増員を図る。

２．４　日本選手団役員の派遣費支給の改善

●「国際大会日本選手団役員の派遣費支給基準」の見直しを踏まえ、経費の無駄を省くために、基準の厳格で合理的な運用と適正な経費管理を実施する。

◆実施内容：新年度の財務基盤が安定したことを確認した上で、見直し基準に基づく適切な支払いを実施することとし、それまでは従来の金額にて運用する。

２．５　日本選手団の行動規範等の順守事項に関する周知徹底

●「日本選手団の海外派遣に伴う注意事項」の改訂を踏まえ、国際大会に参加する選手団を対象に、ドーピング検査時の心得及びＴＵＥ申請の徹底を含め、海外派遣時の各種注意事項に関する指導徹底を図る。

３　アンチ・ドーピング事業の推進【アンチ・ドーピング委員会、スポーツ医科学委員会】

３．１　全国的競技会等におけるドーピング検査の実施

●平成２７年度において、ドーピング陽性者が発生したことから危機的な状況に置かれ、平成２８年度からドーピング防止対策を重点課題として組織挙げて推進してきた。その結果、平成２８年度、平成２９年度及び平成３０年３月９日現在では違反０件であることを踏まえ、２０１９年度も気を緩めることなく引続き重点課題とし、地方大会でもドーピングテストを実施するとともに、ＴＵＥ申請の徹底指導を進める。

※ドーピング検査をスポーツ振興助成事業として申請中

３．２　アンチ・ドーピング委員会の組織体制の強化

●本部アンチ・ドーピング委員会の組織強化を図るために、ブロック及び都道府県協会に配置されたアンチ・ドーピング委員との連携強化を図り、且つ、**ＪＡＤＡの協力を得ながら、アンチ・ドーピングに関する**啓発活動の徹底推進を行う（平成３０年度からの継続）。

◆実施内容：都道府県協会に置かれたアンチ・ドーピング委員の啓発のために、研修会を実施、又は、アンチ・ドーピング講習会の参加を要請する。

３．３　アンチ・ドーピングに関する啓発活動の推進

●全国的競技会毎にアンチ・ドーピング講習会を開催する。又、ＷＥＢ研修が再開されるようであれば、その活用について検討を行う。

◆実施内容：講習会は別紙－３の通り

※アンチ・ドーピング講習会をスポーツ振興助成事業として申請中

◆実施内容：公認指導員養成講習会及び審判講習会の場を活用し、アンチ・ドーピング意識の向上に関する内容を強化して、カリキュラムに織り込む。

３．４　大会参加時の注意喚起

●アンチ・ドーピングに関する啓発と趣旨徹底のために、以下について実施する。

（１）現行のドーピング防止注意喚起文書、アンチ・ドーピングに関するお知らせ等の改訂に基づいて、競技会開催要項及び大会プログラムに掲載し、周知する。

（２）１８歳未満の選手の親権者同意書に関し、提出された書類については個人情報の観点から徹底した管理をする。

３．５　アンチ・ドーピングに関わる的確な情報収集と迅速な情報発信

●日本スポーツ協会（以下「ＪＳＰＯ」）、ＪＯＣ、ＪＡＤＡ、公益財団法人日本スポーツ仲裁機構（ＪＳＡＡ）等の関係機関からの禁止薬物関連情報等の迅速な入手に努め、パワーリフティング関係者に対して、ホームページ等を通じて適時、的確に公開する。

◆実施内容：アンチ・ドーピング委員会とスポーツ医科学委員会との連携とともに、役割分担をしながら、定期的に各機関のホームページにアクセスしたり、講習会に参加する等して、国内外のアンチ・ドーピングに関する最新情報の把握に努める。

４　指導者及び公認審判員養成事業の推進【指導者育成委員会、技術委員会】

４．１　スポーツ指導者の育成促進

●国体公開競技の参加条件として選手団の監督が公認スポーツ指導者の有資格者であることを踏まえ、全国的にＪＳＰＯ公認スポーツ指導者の増員を図る。

◆実施内容：２０１９年度ＪＳＰＯ公認指導員養成講習会（専門科目）委託事業として、２０１９年秋に開催予定（会場は未定）

※共通科目については、ＪＳＰＯ（ＮＨＫ学園に委託）が実施する通信教育の受講による。

４．２　「生涯健康指導士」の養成及び活用の推進

●少子・高齢化社会に対応した生涯スポーツ振興の中核をなす「生涯健康指導士」の有資格者充実に向け、資格者養成講習会を開催するとともに、有資格者の活動を支援することにより競技普及に資する。

◆実施内容：２０２０年１月、ＪＰＡ認定生涯健康指導士講習会開講予定（会場は未定）

４．３　公認審判員のスキル向上と上位資格取得の促進

●「公認審判員規程」の改訂及び「審判講習会、公認審判員昇級試験移管する細則」の制定により、審判講習会、３級公認審判員試験及び２級昇級試験を実施については、本部技術委員会の主催からブロック及び地方協会が主体とする制度に変更したことを踏まえ、この新しい制度の周知と適切な運用を推進することを重点指向とする。

◆実施内容：新制度の全国周知を図るために、ブロックを通じて所属の地方協会に対して、制度内容を分かり易く説明した通達を発信する。

◆実施内容：審判員講習会の開催と３級審判員試験の実施及び２級審判員昇級試験の実施を希望するブロック及び地方協会に対して、新制度の手続きと運営方法について個別指導する。

５　主催競技会の運営に関する事業【スポーツ医科学委員会、技術委員会、組織委員会】

５．１　競技会の適正な運営及び進行の実施

●「ＪＰＡ全日本大会開催マニュアル」の改訂と選手登録方法の変更を踏まえ、適切な運用を推進するために、主管協会に対して変更点に関する周知と理解を図る。

◆実施内容：ブロックを通じて所属する地方協会へ、変更点の周知を図るとともに、主管協会へは適切な開催要項の作成、参加受け付け時の対応等について直接指導を行う。

５．２　競技規則等の情報発信

●ＩＰＦの発表に基づくルール変更がある場合、通達として公表する。必要により、当該年度のルールブックを改訂し発行することにより、選手、審判員、全国のパワー関係者に適時、適切な情報発信を行う。

●全国的競技会の標準記録、国際大会派遣選手選考基準を見直し、通達により公表する。

５．３　グッドリフトシステムの普及

●全国的競技会では、ＩＰＦフーミュラを取り入れた新グットリフトシステムの導入と活用に向けて、技術習得の支援を継続推進する。

５．４　国際大会派遣選手選考

●毎年発表される国際大会派遣選手選考基準に則り、各種全日本選手権終了後に派遣対象選手の出場意思を確認の上、各種国際大会派遣選手選考リストを作成する。なお、競技会当日の選手選考業務に関しては、技術委員会、国際委員会との協力のもとで共同作業とする。

５．５　選手の疾病、事故防止に向けた医科学情報の入手と啓発

●ＪＳＰＯ、ＪＯＣ等各種機関や医科学専門誌から、選手に必要な最新の医科学関連情報の入手に努め、ホームページ、大会プログラム等への掲載を通じて、情報提供と啓発を推進する。

６　広報活動に関する事業　【広報委員会、事務局】

６．１　公式ホームページの管理・運用及びコンテンツの内容充実化、適正化

●ホームページへの情報掲載は、勝手に行うものではなく、誰が、誰の承認を得て、どういう手順で行うかについて明確にし、無許可での情報公開を皆無にし、適切で迅速な情報公開を進める。

◆実施内容：「ホームページの管理運用規程」が改訂され、又、「ホームページへの情報掲載に関するルール」が制定されたことを踏まえ、その内容について本部事務局と専門委員会内での周知を図り、不適切な情報発信を防止する。

Ⅱ　組織基盤の確立に関する事業

７　公益法人としての組織体制整備と強化に関する事業【事務局、組織委員会、フェアプレイ委員会】

７．１　本部事務局の体制整備と対応強化

●新生ＪＰＡの事務局の体制強化のために、人員補充を行うとともに、事務局業務の効率化、迅速化、透明性確保を推進する。

◆実施内容：選手や審判員の登録、登録費の入金管理等を行う新システム導入を踏まえて、登録業務や会計業務の透明化を図るとともに、実効性を高めるために地方協会や加盟団体に周知を図る。

７．２　ガバナンスの強化

●専門委員会において、組織内の意思疎通が十分でなく情報共有がされていないケースがあったこと、閉鎖的で独善的な運営をしているケースがあったこと、あるいは、適切な議事録が作成されていなかったことに鑑み、専門委員会内での意思疎通、課題や情報の共有、そして、会議体の透明化を推進する。

◆実施内容：いかなる会議体であれ、議事録を必ず作成し、理事会に報告するよう徹底指導し、専門委員会と理事会との情報共有を図る。

●平成２７年度から四半期決算を開始した。継続して四半期決算毎に実施し、その結果を理事間で共有し、計画の実効性の確認と課題の洗い出しを行い、透明性のある管理を推進する。

◆実施内容：課題のある専門委員会等の部門に対しては、課題に対する解決策の検討を要請し、計画遂行に向けた推進を図る。

７．３　コンプライアンスに基づく組織運営の推進

●健全で適切な協会運営を継続するために、ＪＰＡ役員及び地方協会役員の認識強化、選手及び審判員のフェアプレイ精神の醸成等に向けた具体的な施策を検討し、必要な活動を進める。

◆実施内容：各専門委員会が管轄する関係規程類の理解を図るために、理事会の場や専門委員会の会議の場を利用して、勉強会を実施する。

●コンプライアンスによる運営強化のために、関連規程類の見直し整備を進め、その内容の周知徹底を図る。

◆実施内容：事業運営に取り組む中で、実務上新たな課題や不明点が生じた際に、速やかに専門委員会として担当する規程類の見直しの要否について、規程類の統括責任者とともに検討を行う。

●役員及び正会員の事案を扱う倫理委員会と選手及び審判の事案を扱うフェアプレイ委員会の担当区分の明確化を図る。

◆実施内容：「賞罰規程」と『競技者等に関する規程』において処分に関する重複項目があるので、「処分に関する基準」を含めて関連する規程類の見直し整理を行い、倫理委員会とフェアプレイ委員会の役割を明確にする。

●ＪＰＡ登録選手の非公認大会の参加及び商行為の届け出について、選手目線で適切かつ迅速な審査処理を進める。

◆実施内容：「競技者等に関する規程」「競技者の非公認大会参加可否に関する運用基準」、「競技者等の商行為に関する運用基準」の周知と理解を図るために、適切な事前の届け出を推進するために、ホームページを活用して注意喚起を行う。

８　加盟組織の基盤強化・充実に向けた事業【事務局、組織委員会、技術委員会】

８．１　都府県体育協会加盟促進に向けた支援

●「都道府県体育協会加盟申請ガイドライン」に基づいて、申請手続きの支援を行うとともに、都府県体協加盟促進を図るため、市区町村体協への加盟促進に関する支援を行う。

◆実施内容：全日本大会を開催する主管協会が未加盟の場合、開催の機会を利用して直接指導を行う。

８．２　地方協会の組織基盤の整備と強化に向けた支援

●未組織状態や組織運営が不活性な地方協会に対し、本部とブロックとの情報交換、情報共有を通じて連携強化を図りながら、様々な課題の共通認識と解決方法を検討するとともに、ブロック間格差の是正やブロック内ガバナンスの強化に向けた方策の検討を行う。

◆実施内容：組織委員会の委員が一新したこと、ブロック技術委員会が設置されたことを踏まえ、例えば、ブロック大会の開催の機会を活用して、関係する委員とブロック及び地方協会との交流を図り、意見交換、情報交換を行う。

９　財務基盤の確立に関する事業【事務局、財務委員会】

９．１　現行賛助会員、協力団体の継続登録等の維持管理業務

●現行の法人、団体、個人賛助会員の継続登録と維持管理を図るため、案内状作成、各ブロックとの連携協力により推進する。

９．２　賛助会員、協力団体の新規開拓と新規会員加盟の促進業務

●平成３０年度の目標を次の通りとする。

・法人賛助	１４社	１４０	万円
・団体賛助	４社	２０	万円
・個人賛助	１０人	５	万円
	合　計	１６５	万円

９．３　寄付行為に関する業務

●免税募金に基づく寄付事業について、各ブロックとの連携協力により推進する。

９．４　ビデオ撮影、物品販売等の許認可業務

●全日本大会開催要項記載の「物品販売、販売目的のビデオ撮影申し出」に基づく届け出に対して、有料許可の案内を行う。ただし、賛助会員は無料の優遇措置があるので、その旨の案内を行う。

別紙－１

２０１９年度
本会等が主催する全国的競技会の開催事業

開催期日	競技会名	開催地
4/27～4/28	※■第48回全日本男子パワーリフティング選手権大会	大阪府堺市
同上	※■第43回全日本女子パワーリフティング選手権大会	同上
同上	※■第38回全日本ジュニアパワーリフティング選手権大会	同上
同上	※■第18回全日本サブジュニアパワーリフティング選手権大会	同上
同上	※■第37回全日本マスターズパワーリフティング選手権大会	同上
5/26	□第29回全日本実業団ベンチプレス選手権大会	埼玉県 さいたま市
同上	□第3回全日本教職員ベンチプレス選手権大会	同上
6/30	□第46回全日本学生パワーリフティング選手権大会	大阪府松原市
8/4	□第37回全日本高等学校パワーリフティング選手権大会	埼玉県 さいたま市
9/14～9/15	☆日本スポーツマスターズ2019岐阜県大会協賛事業 ※■第24回ジャパンクラシックマスターズパワーリフティング選手権大会	岐阜県 美濃加茂市
9/21 ～9/23	■第74回いきいき茨城ゆめ国体 公開競技パワーリフティング	茨城県 つくば市
10/13	□第38回全日本実業団パワーリフティング選手権大会	栃木県 日産自動車
同上	□第33回全日本教職員パワーリフティング選手権大会	同上
10/26 ～10/27	※■第31回全日本ベンチプレス選手権大会 （カテゴリーは一般、サブジュニア、ジュニア、マスターズ）	神奈川県 小田原市
2020年 1/25～1/26	☆健常者、障がい者交流大会 ※■第20回ジャパンクラシックベンチプレス選手権大会 （カテゴリーは一般、サブジュニア、ジュニア、マスターズ）	三重県 津市
H29年 3/6～3/8	☆健常者、障がい者交流大会 ※■第24回ジャパンクラシックパワーリフティング選手権大会 （カテゴリーは一般、サブジュニア、ジュニア）	愛知県 岡崎市
3/22	□第17回全日本選抜高校パワーリフティング選手権大会	埼玉県 さいたま市

【凡例】
- ■　ＪＰＡが主催する競技会
- □　加盟団体が主催する競技会
- ※　国際競技会に関する日本代表選手選考会を兼ねる競技会

別紙－２

２０１９年度
ＪＰＡが参加予定の国際大会

開催日時	大会名	開催国	主 催
４月２０日～２６日	アジアパワーリフティング選手権大会	香港	ＡＰＦ
５月１８日～２５日	世界ベンチプレス選手権大会　クラシック＆エクイップド、J, SJ, マスターズ。	日本 （成田）	ＩＰＦ
７月２１日～２７日	世界大学対抗パワーリフティング大会	エストニア	ＩＰＦ
６月３日～１５日	世界クラシックパワーリフティング選手権大会	スエーデン	ＩＰＦ
８月２６日～３１日	世界ジュニア・サブジュニアパワーリフティング選手権大会	カナダ	ＩＰＦ
９月６日～１２日	アジアクラシック・エクイップドベンチプレス選手権大会	モンゴル	ＡＰＦ
１０月７日～１２日	世界マスターズパワーリフティング選手権大会	南アフリカ	ＩＰＦ
１１月１７日 ～２３日	世界オープンパワーリフティング選手権大会	ＵＡＥ	
１２月２日～８日	アジアクラシックパワーリフティング選手権大会	カザフスタン	ＡＰＦ
２月２２～２９日	アジアパシフィッククラシック＆エクイップドベンチプレス＆パワーリフティング選手権大会	台湾	ＡＰＦ ＡＰＵ